

令和4年度千葉県体力・運動能力調査結果の概要とまとめ

(1) 調査概要【千葉市を含まない】

- ア 調査の対象 県内全公立学校（小・中・高等学校）児童・生徒 ※令和4年度学校基本統計速報より
- | | | | |
|--------|--------------|---|----------|
| 小学校 | 252,683名 | | |
| 中学校 | 121,443名 | | |
| 義務教育学校 | 1,859名 | | |
| 高等学校 | 88,735名（全日制） | 計 | 464,720名 |
- イ データ抽出人数（全児童・生徒の約5%） ※実施要項より
- | | | | |
|------|---------|---|---------|
| 小学校 | 13,152名 | | |
| 中学校 | 6,732名 | | |
| 高等学校 | 5,184名 | 計 | 25,068名 |
- ウ 調査の内容
新体カテスト 握力 上体起こし 長座体前屈 反復横とび 20mシャトルラン 50m走
立ち幅とび ボール投げ（小学校：ソフトボール、中・高：ハンドボール）
- エ 調査期間 令和4年4月から11月

(2) 結果概要（有意差検定はT検定を用いた）

①本県児童生徒の令和4年度と令和3年度との比較

(ア) 昨年度を上回った種目、下回った種目ともに減少した。

全項目192項目中（小・中・高の男女別全24学年×8種目＝192項目）令和3年度を上回った項目は3項目（1.6%）※昨年度は6項目（3.1%）、有意差のない項目は172項目（87.8%）※昨年度は97項目（50.5%）、下回った項目は17項目（8.9%）※昨年度は89項目（46.3%）であった。昨年度と比較すると、昨年度を上回った項目が3項目減少し、下回った項目は72項目減少した。

(イ) 校種別では、小学校は全体的に向上傾向が見られた。中・高は昨年度を下回った項目は減ったものの、女子は低下傾向が見られた。

小学校は、昨年度平均を上回った項目は1項目（1.0%）※昨年度は0項目（0.0%）、有意差が見られずほぼ同様の項目は95項目※昨年度は45項目（46.9%）、下回った項目はなくなった※昨年度は51項目（53.1%）。6年生女子の握力が向上した。

中学校は、昨年度平均を上回った項目は0項目（0.0%）※昨年度は0項目（0.0%）、有意差が見られずほぼ同様の項目は44項目（45.8%）※昨年度は26項目（27.1%）、下回った項目は4項目（4.2%）※昨年度は22項目（22.9%）であった。3年生女子の上体起こし、20mシャトルランは令和元年度から連続して下回った。

高校は、昨年度平均を上回った項目は2項目（2.1%）※昨年度は6項目（6.3%）、有意差が見られずほぼ同様の項目は33項目（34.4%）※昨年度は26項目（27.1%）、下回った項目は13項目（13.5%）※昨年度は16項目（16.7%）であった。2年生男女のハンドボール投げは昨年度から連続して下回った。

1年生女子の反復横とび、50m走、ボール投げは令和元年度から連続して下回った。

(ウ) 項目別では、20mシャトルラン、ボール投げに課題が見られた。

20mシャトルランは、昨年度と比較して有意差のない学年は21学年、下回った学年は3学年であった。ボール投げは昨年度と比較して有意差が見られずほぼ同様の学年は20学年、下回った学年は4学年であった。いずれも昨年度と比較して向上した学年はなかった。

②本県（令和4年度）と全国（令和3年度）との比較

(ア) 全体では全国平均値を上回った項目が17.7%(R3 18.8%)で、昨年より減少した。

全国平均値を上回った項目は34項目（17.7%）、下回った項目は93項目（48.4%）であった。また、有意差のない項目は65項目（33.9%）であった。

昨年度と比較すると、全国平均値を上回った項目が2項目減少（昨年度は29項目減少）し、下回った項目は5項目増加（昨年度は29項目増加）した。

(イ) 校種別では、小学校は全国を上回る項目が減少し、下回る項目も減少した。中学校については全国を上回る項目が増加し、下回る項目も増加した。高校は全国を上回る項目がなくなり、下回る項目が増加した。

全国平均値を上回った項目は、小学校で31項目（32.2%）※昨年度は35項目（36.5%）、中学校で3項目（3.0%）※昨年度は0項目（0%）、高等学校で0項目（0%）※昨年度1項目（1.0%）であった。

全国平均値を下回った項目は、小学校で16項目（16.7%）、中学校で35項目（36.5%）、高等学校で42項目（43.8%）であった。昨年度と比較すると、小学校で3項目の減少、中学校で1項目の増加、高等学校で7項目の増加となった。

(ウ) 項目別では、全校種で長座体前屈が高い傾向にある。一方で、反復横跳び、20mシャトルランは全校種で低い傾向にある。また、校種が進むにつれ全体的に低下傾向が見られる。

項目別では、長座体前屈は、高校の一部の学年を除いて小中高ほとんどの学年で全国平均を上回ったか有意差のない状況である。握力、上体起こし、50m走は、小学校では全国平均を上回ったか有意差のない状況であるが、中学校・高校では全国平均を下回ったか有意差のない状況である。立ち幅とびとボール投げは、小学校は一部の学年を除き全国平均を上回ったか有意差のない状況であるが、中学校・高校では、全ての学年で全国平均を下回った。反復横とび、20mシャトルランは、小中高の全ての校種で全国平均を下回ったか有意差のない状況である。

③スポーツ庁の発表（令和3年度の調査結果のまとめ）

(ア) 令和4年10月、スポーツ庁が発表した「令和3年度体力・運動能力調査報告書」では、「体力・運動能力の年次推移（青少年期 - 6歳から19歳）」について次のようにまとめている。

- ・ 令和3年度の握力、50m走、持久走、立ち幅とび、ボール投げを、水準の高かった昭和50～60年頃と比較すると、中学生男子及び高校生男子の50m走を除き、依然低い水準になっている。
- ・ 最近10年では、男子では、握力、ボール投げが多く年代で低下傾向を示しているが、合計点は横ばいである。女子では、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび及び合計点が多く年代で向上傾向を示している。 <参照：スポーツ庁ホームページ>

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k_detail/1421920_00005.htm

(イ) 本県（令和3年度）と全国（令和3年度）との比較

- ・ **ボール投げ、反復横とび、20mシャトルランは多くの学年で全国平均を下回った。**
全24学年中、長座体前屈は19学年で全国平均を上回った。一方、ボール投げは18学年で、反復横とび、20mシャトルランは21学年で全国平均を下回った。
- ・ **小学校は全国平均を上回った項目は62項目、下回った項目は34項目であった。**
小学校は、握力は全学年で全国平均を上回った。反復横跳びは9学年で、20mシャトルランは10学年で全国平均を下回った。
- ・ **中学校は全国平均を上回った項目は6項目、下回った項目は42項目であった。**
中学校は、長座体前屈は全学年で全国平均を上回った。それ以外の全ての種目は全学年で全国平均を下回った。
- ・ **高等学校は全国平均を上回った項目は6項目、下回った項目は42項目であった。**
高等学校は、反復横跳び、20mシャトルランは全ての学年で全国平均を下回った。また、男子は全ての学年、項目で全国平均を下回った。

(3) 結果の活用

①児童生徒への活用

(ア) 自己の測定結果と県や全国の平均値等との比較や、発達段階に応じてTスコアを算出させるなどして、自己の体力・運動能力の現状を知り、今後の体力・運動能力向上のめあてをもたせることができるようにする。

(イ) 自己の測定結果から、体育・スポーツへの意欲・関心を高める動機づけとすることができるようにする。

②学校としての活用

(ア) 自校の結果を、全国、千葉県、地区などと比較して、児童生徒の個人の体力・運動能力の特徴を把握することで、自校の体力向上に向けた取組の成果と課題を把握・検証する。

(イ) 結果を家庭や職員に提供すると同時に、体力向上への理解や協力を求めるようにする。

(ウ) 体力向上計画の作成、体力向上に向けた取組及び体育・健康に関する指導の改善に役立てる。

*平均の比較は、単に平均値のみで行うのではなく、標準偏差等の情報も考慮することが必要である。